こんな雑草　こんな問題

和歌山県北部のカンキツ園に出現

ゴウシュウヒカゲミズ

植村　修二

Parietaria debilis **G.Forst.　イラクサ科ヒカゲミズ属**

■分布

世界ではヒカゲミズ属の約 10 種が雑草とされる（Randall 2002）。わが国には，ヒカゲミズ *P. micrantha* Ledeb.　var. *micrantha* とその変種タチゲヒカゲミズ *P. micrantha* Ledeb.　var. *coreana*（Nakai）H. Hara が本州中部や九州に自生し，ゴウシュウヒカゲミズ，カベイラクサ *P. judaica* L.，オオヒカゲミズ *P. pensylvanica* Muhl. ex Willd. が帰化している（米倉・梶田 2007）。帰化種は関東以西で知られており，このうちゴウシュウヒカゲミズが和歌山県北部の果樹園，特にカンキツ園に多く発生し，隣接する大阪府南部にも侵入している。また，2016 年に兵庫県宝塚市ではバーク堆肥から（山住一郎　私信），2018 年に大阪府大阪市天王寺区ではマルチング用木材チップからの生育が市街地で認められた（図 -1）。

■形態と見分ける「ポイント

ゴウシュウヒカゲミズは，全体が黄緑色で，軟毛が散生～密生し，やや軟弱な一年生草本である。茎は分岐して斜上～直立し，高さ 40cm ほどになる。葉身は全縁の卵形で先は鈍頭，長さ 1 ～ 3cm，幅 0.5 ～ 2cm となり，葉柄は長さ 1 ～ 3cm になる。小さな苞葉のある頭状花序を葉腋につける（内藤ら 2017）。後述する現地では主にコハコベなどと誤認されていた（稗田ら　2016）。

■雑草としての情報

ゴウシュウヒカゲミズは，2012 年に和歌山県日高郡日高川町，2013 年に和歌山県有田市，2014 年には和歌山市，海南市での数か所で，主にカンキツ園の下生えとしての生育が確認されている（内藤ら 2017）。ゴウシュウヒカゲミズはニュージーランドやオーストラリア，中南米にかけて広く分布しており，肥料として施用された「オーストラリアから輸入された原毛の選別クズ」に混入して侵入したと考えられる（稗田ら 2016）。原産地では，果樹園，コーヒー園や，都市の庭園の雑草とされており（Lorenzi 1991），わが国でさらにもこうした環境に広がる可能性がある。

■防除に関する情報

2018 年に筆者らが現地を確認した際，多くのカンキツ園で除草剤の茎葉散布後ゴウシュウヒカゲミズが枯れずに残っていた（図 -2）。地元の JA に問い合わせたところ，春先の除草剤処理はグリホサート系除草剤が主体であるが，ゴウシュウヒカゲミズに対しては薬剤をグルホシネートにして処理するとのことであった。和歌山県果樹試験場での除草剤適用性試験（2017，18 年）では 300 ～ 500mL/10a のグルホシネート剤処理でメヒシバ，ナギナタガヤ，アメリカフウロなどとほぼ同等の防除効果が得られている。また，聞き取り調査により，ゴウシュウヒカゲミズを難防除雑草として問題視している生産者がいる一方で，草丈が低く刈払いが容易であることからそこまで気にしていない生産者もいた。

■参考文献

稗田真也ら 2016．和歌山県にみられるヒカゲミズ属雑草，ゴウシュウヒカゲミズ（新称），日本帰化植物友の会通信　14, 4-5.

Lorennzu, H.. 1991. Plantas Daninhas do Brasil.

内藤麻子ら 2017．和歌山県に帰化した外来植物ゴウシュウヒカゲミズ *Perietaria debilis* G.Forst.（イラクサ科）について．分類 17（1）, 83-88.

日本植物調節剤研究協会 2018, 2019．常緑果樹除草剤適用性試験成績書.

Randall, R.P. 2002. A giobal compendium of weeds.

米倉浩司・梶田忠 2007．植物和名－学名インデックス YList, http://ylist.info（アクセス確認：2021 年 12 月 27 日）.

図 -1　マルチング用木材チップからの生育が認められたゴウシュウヒカゲミズ（大阪府大阪市天王寺区，2018 年 5 月 25 日撮影）

図 -2　除草剤茎葉散布後のカンキツ園に枯れ残るゴウシュウヒカゲミズ　（和歌山県海南市，2018 年 4 月 21 日撮影）